

科学・技術重要施策 アクション・プランの 策定について

平成22年3月31日

総合科学技術会議有識者議員

アクション・プランの構成（階層構造）

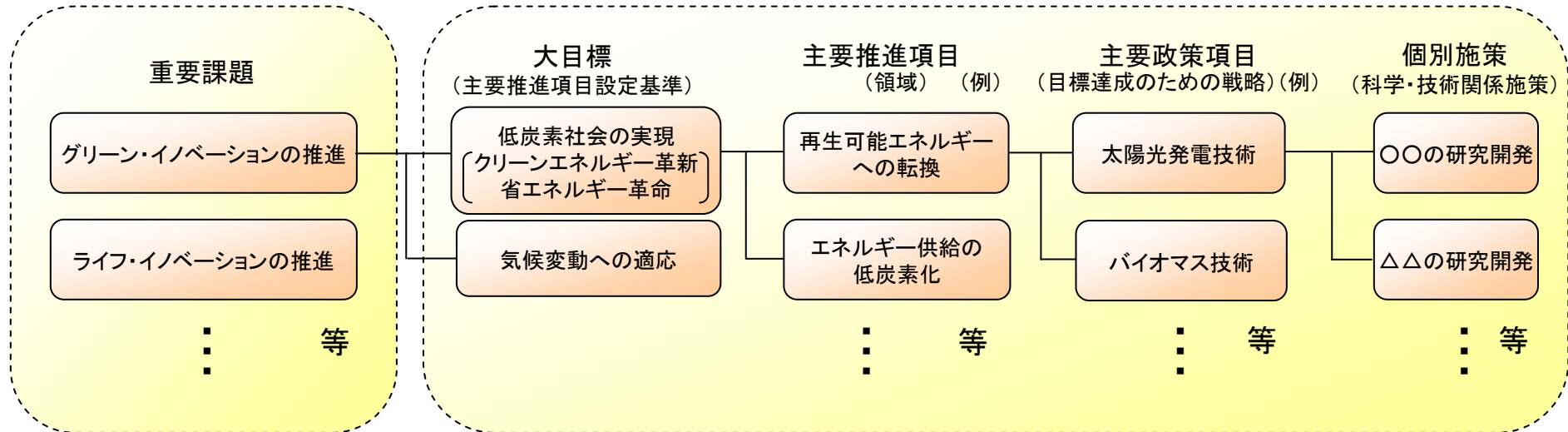
「科学・技術政策上の
当面の重要課題」に
おいて重要課題を指定

骨子公表: 2月18日
報告 : 3月 9日

「科学・技術重要施策アクション・プラン」において

- ①重要課題解決に向けた柱となる『主要推進項目』
 - ②対応策の実施に必要な『主要政策項目』
 - ③主要技術を構成する要素技術の開発に向けた『個別施策』
- を各府省の協力の下、取りまとめる。

※ 重要課題(グリーン・イノベーション、ライフイノベーション)の定義についての検討も実施
策定予定: 4月下旬以降



※各項目等はイメージ例であり、今後変更がありうる

- ・複数の評価軸を設定、優先度をポートフォリオ評価
- ・主要政策項目についてロードマップを作成

主要推進項目についての検討（例）

有識者議員による主要推進項目の事前検討例

◎グリーン・イノベーションの推進

1. 再生可能エネルギーへの転換

- ・太陽光発電技術
- ・バイオマス利活用(熱利用、廃棄物発電含む)
- ・風力発電
- ・地熱発電
- ・太陽熱発電
- ・水力発電
- ・海洋エネルギー(潮力・波力発電)

2. エネルギー供給の低炭素化

- ・原子力発電
- ・高効率火力発電
- ・水素製造・貯蔵・輸送
- ・二酸化炭素回収・貯留
- ・高性能電力貯蔵
- ・超伝導送電
- ・石油関連技術

3. エネルギー利用の効率化・スマート化

- ・次世代自動車(ハイブリッド・電気自動車)
- ・次世代自動車(燃料電池自動車)
- ・高効率輸送機械(高効率鉄道車両、低燃費航空機、高効率船舶)
- ・省エネ家電・情報機器・情報通信システム
- ・省エネ住宅
- ・高効率給湯器(高効率ヒートポンプ)
- ・高効率給湯器(燃料電池)
- ・省エネデバイス

4. 社会インフラの環境先進化

- ・環境先進都市
- ・高度道路交通システム(ITS)
- ・森林資源の持続的利活用
- ・食料資源の安定供給
- ・国内資源の循環利用の徹底
- ・環境観測・気候変動予測

◎ライフ・イノベーションの推進

1. 疾患解明と予防医学の推進による罹患率低下

- ・ゲノムコホート研究推進による予防法の開発
- ・生活習慣病の総合的解明による予防法の開発
- ・ゲノム情報(エピゲノムを含む)等に基づく生命機能の解明

2. 革新的診断・治療法の開発による治癒率の向上

- ・医薬品の効果的・効率的な開発
- ・早期診断・早期治療を可能とする技術あるいは機器の開発

3. 高齢者・障がい者のQOL向上

- ・高齢者・障がい者が楽に使える介護機器の開発
- ・介護者に負担の少ない補助機器開発
- ・再生医療の推進

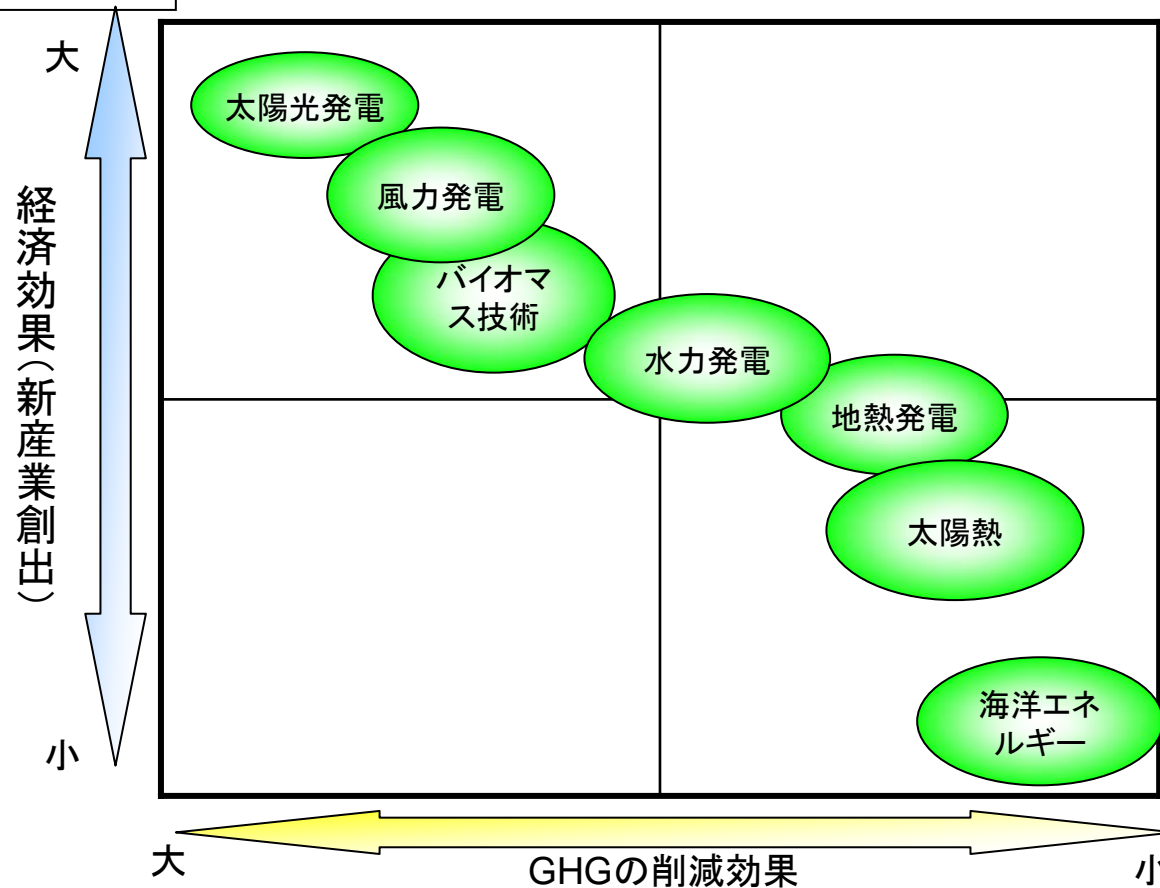
※各項目の例はイメージであり、今後変更がありうる

主要政策項目におけるポートフォリオ化のための評価材料

評価軸の例

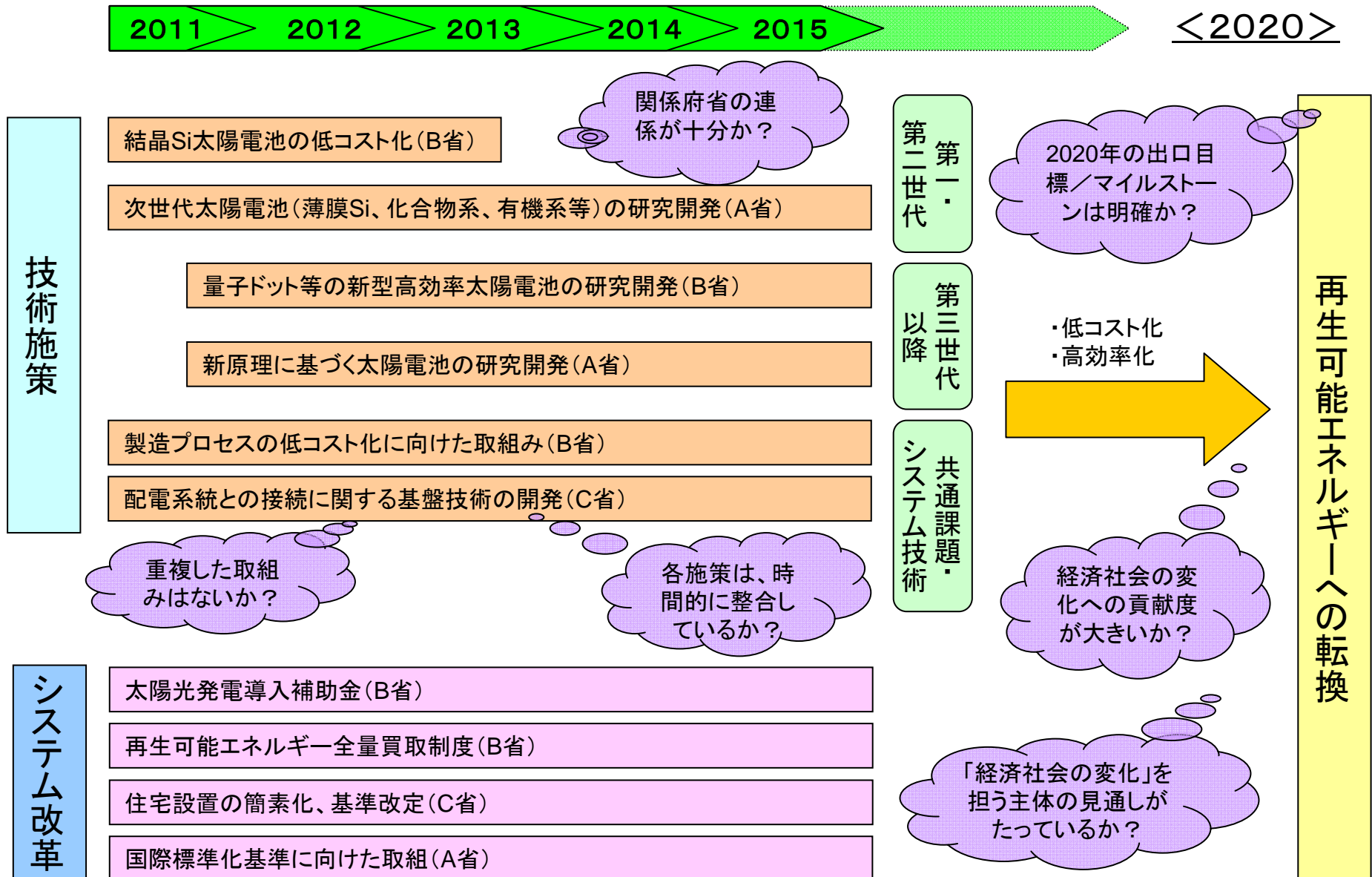
- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 温室効果ガス削減効果 | ④ 普及・導入のための公的取組 |
| ② 創出される新産業 | ⑤ 技術的難易度/実現可能性 |
| ③ エネルギーコスト | ⑥ 技術の国際競争力 |
- 等

ポートフォリオのイメージ



主要政策項目のロードマップのイメージ例

【太陽電池の場合】



(参考) アクション・プランの策定の背景等

背景

○ 総合科学技術会議が実施する資源配分方針の策定及び優先度判定等に関しては、効果的・効率的な科学・技術関係施策の推進の観点から、

- ① 一層の科学・技術関係施策の重点化
- ② 各府省連携の強化による効率化
- ③ 施策の立案過程の一層の透明化

が求められている

新たな取組

「当面の重要課題」と「資源配分方針」を有機的に結びつけ、各府省の概算要求と総合科学技術会議の方針との整合性を高めて科学・技術関係予算の重点化・効率化を実現するために、新たに以下の取組を実施

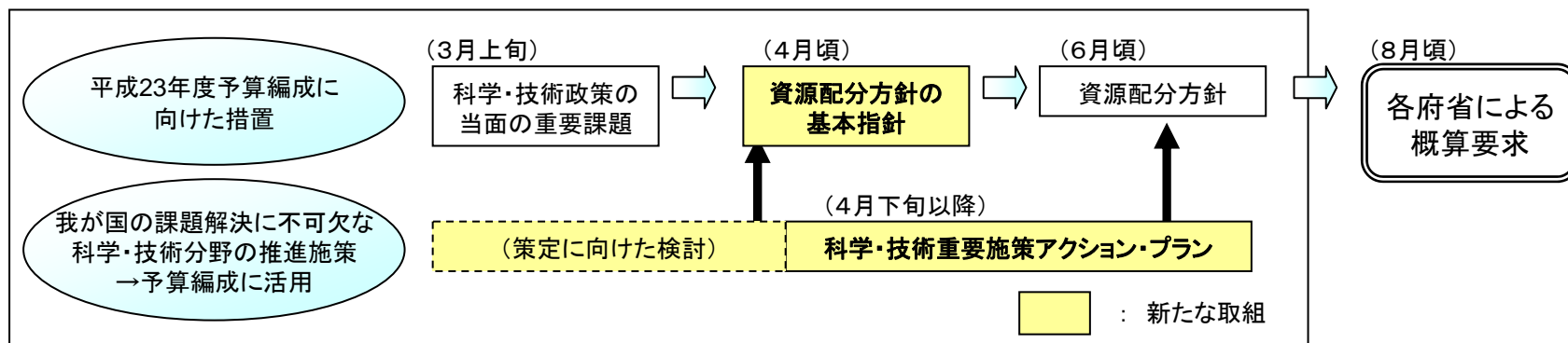
○科学・技術重要施策アクション・プランの策定

次年度に国として取り組むべき主要な個別施策群をポートフォリオ化するなどの推進方法を明記 ⇨ 各府省連携の強化による効率化
平成23年度は新成長戦略(基本方針)を踏まえ、①グリーン・イノベーション、②ライフ・イノベーション等を中心に検討するとともに、予算の効率的・効果的な執行の面で速効性が期待される③競争的資金の使用ルール等の統一化についてとりまとめる

○科学・技術に関する予算等の資源配分の方針の基本指針の策定

各府省はこの基本方針を踏まえて次年度の概算要求を検討 ⇨ 予算編成に関する総合科学技術会議の方針を各府省に徹底

【予算編成に向けた総合科学技術会議の取組】

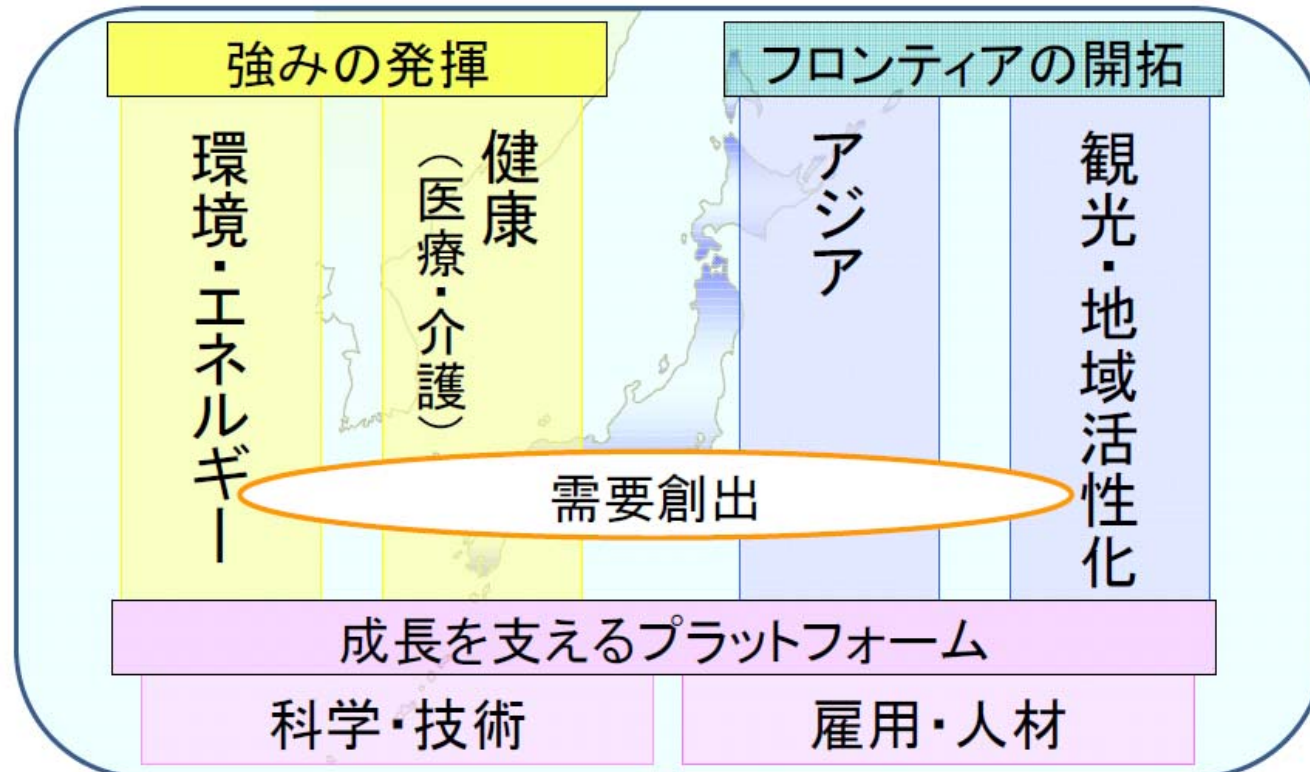


(参考) 新成長戦略 (基本方針) の概要 抜粋①

「需要」からの成長 ～豊かな国民生活を目指して～

- GDP成長率: **名目3%、実質2%を上回る成長** (2020年度までの平均)
- 名目GDP: 2009年度473兆円(見込み)を**2020年度650兆円**程度
- **失業率: 3%台**への低下(中期的)

を目指す



(参考) 新成長戦略 (基本方針) の概要 抜粋②

日本の強みを活かした成長

環境・エネルギー



【2020年までの目標】

- 新規市場50兆円超、新規雇用140万人
- 日本の技術で世界の排出13億トン削減

【主な施策】

- 固定価格買取制度拡充等による再生可能エネルギー拡大支援
- 住宅・オフィス等のゼロエミッション化
- 革新的技術開発の前倒し
- エコ社会形成に向けた集中投資事業

健康 (医療・介護)



【2020年までの目標】

- 需要に見合った産業育成と雇用の創出
- 新規市場約45兆円、新規雇用約280万人

【主な施策】

- 医療・介護・健康関連産業の成長産業化
(民間事業者等の参入促進など)
- 革新的な医療技術、医薬品、機器の研究開発・実用化推進
- アジア等海外市場への展開促進
- バリアフリー住宅の供給促進

(参考) 研究開発力強化法における「イノベーションの創出」の定義

研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化及び研究開発等の効率的推進等に関する法律(平成20年6月11日法律第63号) 抜粋

(定義)

第2条第5項 この法律において「イノベーションの創出」とは、新商品の開発又は生産、新役務の開発又は提供、商品の新たな生産又は販売の方式の導入、役務の新たな提供の方式の導入、新たな経営管理方法の導入等を通じて新たな価値を生み出し、経済社会の大きな変化を創出することをいう。